

編集後記

恒例の技術例会およびシンポジウムの貴重な講演内容は講師の皆様にご承諾頂き再掲載した。寺子屋 BM 塾では、大同特殊鋼（株）理事（JABM 理事）の入山恭彦氏にボンド磁石と題してご講義頂き、その講義内容は徳永寺子屋 BM 塾長に詳しく紹介して頂いた。軟磁性材料研究会と圧粉磁心の規格化・標準化部会の討議の内容は飛世主査に詳しく紹介して頂いた。それぞれ貴重な内容でありぜひ参考にして頂きたい。

オンライン会議が取り入れられ、極く当たり前の技術になってしまったが、これほど急激な変化を起こさせたコロナに改めて驚いてしまう。何かが大きく変化するには、そうせざるを得ない状況が必要であり、それに対応するため急激な技術革新が起こることを実感させられる。国においても、企業においても、個人においても、追いつめられないと変化・変革はなかなか進まない。追いつめられないとどうしても現状維持が優先し変わらない。

今年度は各種行事をオンサイトとオンライン併用で実施した。技術例会やシンポジウムなどでは新規の技術開発状況などが聴けるため講師との直接対話を重視するため参加者の約半数がオンサイト参加であり、懇親会にもその 8 割程度が参加した。寺子屋 BM 塾では講義を受けるという形でとなり、参加に必要な時間と費用の節約が優先するためか、殆どがオンライン参加になってしまった。寺子屋 BM 塾を始めた当初に考えていた若手の交流会が開催できない状態である。

BM 素心では諏訪副会長がコンプライアンスと品質検査技術の重要性について述べている。多くの企業がコンプライアンス教育を強化しているにもかかわらずコンプライアンス違反がなくなる問題について言及している。

最近読んだマシュー・サイド著の「失敗の科学」は大変興味深かった。ここでは、失敗に対するアプローチの違いに言及している。航空業界では全ての事故原因の究明は直ちになされ二度と同じ失敗が起こらないよう対策が取られているが、それに対して医療業界では回避可能な医療過誤での死亡などが隠蔽され、同じあやまちの対策がなされていないと指摘している。また、日本についても文化の違いについて言及しており、複雑な社会的・経済的背景の影響で、失敗は不名誉なものと思われがちの傾向が強い。失敗は、基本的に自分だけでなく家族にとっても恥。ビジネスが失敗して非難されるのは珍しいことではなく、非常に厳しく責任を追究されることも多いと述べている。この指摘はコンプライアンス遵守前の問題であるが・・・。

機関紙編集委員長

大森 賢次